

大村市農業基本計画の施策進捗状況

<計画期間：令和5年度～令和14年度>

基本目標	基本施策	指標	基準 (令和3年度)	令和6年度 実績	目標 (令和14年度)	達成率 (%)	進捗状況説明	
1	農業の生産性の向上と販路拡大	1 生産性の向上	認定農業者の平均農業所得	4,470千円	4,510千円	5,300千円	85.1	所得額の増加者、減少者の傾向は年齢、栽培品目に関わらず変動しており、全体として令和5年度(4,500千円)よりも若干増加したが令和6年度目標(5,080千円)を達成できなかったが、飼料価格高騰などの厳しい状況にある農畜産業の経営の維持・安定化のための支援策を講じ、農業所得の維持を図った。 ○令和6年度(1月)補正予算 ・畜産関連物価高騰対策事業 7,708,000円 ・大村産長崎和牛活用支援緊急対策事業 2,071,000円 ・農業資材等価格高騰対策事業 24,547,000円
		2 農産物のブランド化と販路拡大	新たにブランド化した農産物の品数(品)(累計)	4品	4品	9品	44.4	新たにブランド化した農産物の品数について、件数は増えていないものの、大村産農産物や大村産畜産物の販路拡大のため、各種イベントにおいて販売活動やPRを行った。また、大村生まれ大村育ちの長崎和牛を全国和牛能力共進会へ出品するための支援を行うなど体制づくりの強化を図っている。
		3 6次産業化の推進	6次産業化への新規参入件数(件)(累計)	7件	7件	13件	53.8	新たな農産加工品について、件数は増えていないが、新たな作物栽培の取組みや付加価値のある販売方法などの研究が行われた。
		4 農業体験等による農産物のPR	農業イベントへの参加者数(人/年)	2,015人 (令和元年度19,068人)	38,829人	28,000人	138.7	「第23回牧場まつり」への参加者数は2,057人で、大村産の長崎和牛を中心とした大村産畜産物は、約252万円の売り上げがあり、市内外へ向けたPRができた。また、おおむら海と大地の感謝祭で7,700人、直売所などで29,072人となり、目標を大きく上回る結果となった。
2	農業の担い手の育成と確保	1 新規就農者の確保	新規就農者数(人/年)	17人	12人	17人	70.6	就農相談等を実施した結果、施設野菜4人、露地野菜7人、稲作1人の合計12人となり、昨年度よりも増加した。 (R4 16人、R5 9人)
		2 認定農業者の育成	認定農業者数(人)	210人	213人	300人	71.0	認定農業者数は、大村市担い手育成総合支援協議会が主体となり、認定農業者に対する経営診断や巡回指導などの取組を行なった結果、新たに4件増加したが、経営規模縮小等の理由により8件減少した。昨年度から4件減少となった。
		3 集落営農の推進	集落営農組織数(組織)	2組織	2組織	6組織	33.3	新たに集落営農の組織化を行うことはできなかった。

基本目標	基本施策	指 標	基 準 (令和3年度)	令和6年度 実 績	目 標 (令和14年度)	達成率 (%)	進捗状況説明	
3	農地の保全と有効活用	1 農業生産基盤の保全及び強化	鈴田・内倉地区基盤整備事業（R2～R8）進捗率（%）	12.5%	55.0%	100%	55.0	鈴田・内倉地区基盤整備事業は、令和5年度より区画整理工を実施しており、1・2工区の基盤整備が終了したが、埋設物移設協議及び仮舗装施工に時間を要し、事業進捗が遅れたため令和6年度目標値（68.0%）を下回るようになった。
		2 農地の利用集積	農地利用集積面積（農地中間管理事業活用面積）（ha）（累計）	262.5ha	390.5ha	370ha	105.5	「農地利用集積面積（農地中間管理事業活用面積）」は、令和6年度に44.1haを集積した結果、平成27年度以降の延べ面積で390.5haとなっている。
		3 有害鳥獣対策の推進	有害鳥獣による農業被害額（千円／年）	5,267千円	8,994千円	3,700千円	41.1	令和5年度の3,857千円から5,137千円増加し8,994千円となり、目標値を下回った。被害額の90%がイノシシによるもので、作物別では、被害額の多い順に、水稻（57%）、果樹（35%）、野菜類（5%）となっている。